

■東京大学 大越慎一教授  
らは大容量のデータ記録の実現につながる磁性物質を開発した。青や赤の光を当てて磁石の性質を変化させると、この物質から出てくる光の振動する面（波面）の角度が変わる。セ氏零下261度以下で現象を確認した。

開発したのは光で磁性が変わる「光磁石」の一種で、鉄とニオブを含んでいる。青色の光を当てると、物質から出てくるレーザー光の波面が垂

## 大容量記録に有効 磁性物質を開発

直になった。一方、赤色の光を当てると波面が水平になった。青と赤の光の照射時間を調整すれば、0〜90度の間で角度を任意に設定できる。

データを記憶する微小領域を従来より有効に使えるので、大量データを記憶できる装置を作れる可能性がある。書き込み・読み出し速度も大幅に高まる。今より30度以上高い温度で使えるよう物質を改良すれば、冷却しやすくなり実用化に近づくという。